



.NET ってどうよ

dotNET マガジン 創刊記念大放談

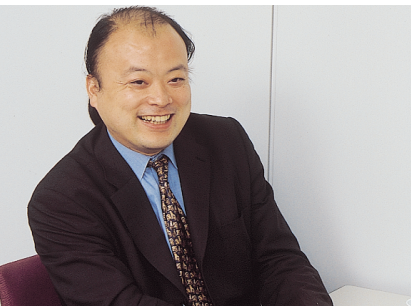


西谷 亮氏

マイクロソフト株式会社
デベロッパーマーケティング本部
.NETテクノロジー部
テクニカルエバンジェリスト

.NET Frameworkや基盤技術に関する啓蒙活動を主な業務とする。Tech・EdやDeveloper Daysなどのカンファレンスでの開発者向け講演や各種雑誌への執筆活動など、多忙な日々を送っている。

2002年3月にVisual Studio.NETがリリースされてから半年が過ぎた。β版が披露されてからだと、1年以上にもなる。満を持しての登場となったVisual Studio.NETだが、半年が経過した今、果たしてVisual Studio.NETをめぐる状況はどのようなことになっているのか。インターネットをベースインフラとした開発環境は、どう変化しつつあるのか、本誌でもおなじみの顔ぶれに登場していただき、さまざまな角度からお話していただいた。



福岡 寿和

株式会社富士通
ソーシャルサイエンスラボラトリ
ビジネスシステム事業部
第三システム部主任 ITエキスパート

入社当時から他社を含む異機種間接続部分を数多く手がける。最近では、汎用機システムやPCスタンドアロンシステムを、Oracleを使ったC/Sシステムに再構築したり、Linuxを使ったWeb-DB連携などの開発にも携わっている。

江藤 潔

アイ・サナップ株式会社 代表取締役
Visual Basic Users Group/
Japan 会長

システムSIやコーディネーションをこなす多忙な毎日を送っている。とくにマルチベンダーへの対応の柔軟さは定評がある。ユーザーの視点に立ったセミナーも精力的に遂行中。座右の銘は「未来像を現実にするのは我々の努力です」。



矢澤 久雄

株式会社ヤザワ 取締役社長
グレースィティ株式会社
アドバイザースタッフ
電腦ライター友の会 会長兼事務局長

.NETに対応したコンポーネント製品のマーケティングに従事するかたわら、プログラミングに関する書籍や雑誌での執筆活動、セミナーやカンファレンスなどの活動を精力的に行っている。

西田 雅昭

ジャパン・データベース・
ユーザーズ・グループ

8ビット時代からパソコンに親しみ、常にエンドユーザーの立場からコンサルティングを続けている。多くのパソコン雑誌でも活躍中。著書も「プログラミング「基本」の本」(小社刊)をはじめ多数。





Visual Studio.NETへ 移行するメリット

編集部：Visual Studio.NETがリリースされて半年ほど経つわけですが、お使いになられた上で周囲の反響など、どうぞ覧になってますか？

矢澤：.NETユーザーにはホビーユースとプロフェッショナルユースの両者がいると思います。ホビーユーザーにとっては今まで作れなかったものが簡単に作れるようになった点がメリットですし、プロフェッショナルユーザーにとっては効率的にソフトの開発ができる点がメリットではないでしょうか。

プロフェッショナルユーザーは過去に作ったシステムの面倒をみなければならぬという側面もありますからすぐに移行するのは難しいかもしれませんが、でも、いずれ過去のものもなくなってゆくので、VB.NETに乗り換えざるを得ないでしょうね。ホビーユーザーは過去のことはどんどん忘れてVB.NETに没頭して楽しんでいただきたいですね。

西田：プロフェッショナルユースという側面で考えると、これまではシステムを作って、実際の納品先のシステムに組み込むのは大変だったんですね。いわゆる“DLLヘル”と呼ばれている問題もありましたし。ただ、それがVS.NETになって、簡単にコピーして納品できる。これはとても楽ですね。さらにIDE（開発環境）は、これまでも便利だったんですが、今まで以上に便利になったので、これから新しくシステム開発を行なう方にとっては使用するメリットはあると思います。

西谷：一般にVB.NETは「すごい」「新しい」「いろんなことができる」と思われがちですけど、実際のところ、今までのVisual Basicの資産があるからこ

そ、VB.NETが誕生したと思います。まあ、もともとVB.NETのビジョンなんかもそうなんですが、今までのVBで開発していた人がVB.NETに乗り換えるメリットは、そうした「今までのVBの資産に対し、新しい考え方を追加してゆくことができる」点だと思います。

矢澤：Microsoftがこれまでにいろいろと出してきた新しいテクノロジーとか手段を一気にまっさらに整理してくれた、という感じがありますよね。

江藤：言語的な面からいえば、基本的に今回のVB.NETは完全に新しい言語だということは誰が見ても明らかなので否定はしません。これから新しいプロジェクトで開発をするのであれば、リッチクライアントでもWebベースでもいいのですが、VB.NETで開発したほうが良いと思います。ただ、今までVB6.0でやっていたうまいってするのであれば、移行するメリットはないんじゃないですかね。ただまあ、大きな印象としては、ほかの言語がVBに近づいたという感じを非常に強く受けますね。個人的には昔からVBやってて、好きだからVB.NETと付き合いおうか、くらいの感じです。

福岡：ホビーユーザーとして見たら、VB.NETってすごく楽しいですね。コードがきれいですし、クラスがきちんと整理されていますし。一方、プロフェッショナルユーザーの大半は、どうしても昔のVBのコードを引きずってしまって、VB.NETに移行するのが面倒くさくなるのかもしれないですね。で、実はプロフェッショナルユーザーは、もう少し細分化できて、ひとつは開発を外注して自分ではでき上がってきたコードを見る人たち。この人たちにとってはVB6.0よりもVB.NETのほうが見やすい。とくにIDEの性能はVB6.0より凄くよいので、なにかちよ